



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：アムネスティ・インターナショナルが発表する水資源問題報告書への水公社の
反応 (10月27日付「エルサレム・ポスト紙」)

27日付エルサレム・ポスト紙は、イスラエル・パレスチナ間の水の利用状況についてアムネスティ・インターナショナルがイスラエルに批判的な内容の報告書を発表することに対してイスラエル水公社が反論したと報じた。概要は以下の通り。

1. アムネスティ・インターナショナルが発表する予定の報告書の主な内容は以下の通り。
 - (1) 西岸地区内の帯水層から80%の水をイスラエルがユダヤ人入植地用に使用している。
 - (2) 一日当たりの水の使用量が、イスラエルの400リットルに対して、パレスチナ側では70リットルに過ぎず、WHOが推奨する一日当たり100リットルに到達していない。
 - (3) イスラエルは水資源の公平な配分と差別行為の停止に着手すべき。
 - (4) 過去9年間にわたり、イスラエルは水源の接收や水タンクへの攻撃などを行っている。
 - (5) パレスチナ人を土地から追い出すため、イスラエル国防軍はパレスチナ人の水資源へのアクセスを制限している。
 - (6) イスラエルは、パレスチナ人の人権を侵害している。
2. イスラエル水公社の反論内容
 - (1) 27日に公開予定のアムネスティ・インターナショナルによる報告書で、イスラエルと西岸地区内での不平等な水配分などの批判的な内容が含まれていることに関して、イスラエル水公社調査員への資料の提示や事前協議が行われなかったことを非難する。また、報告書内の事実関係には疑問がある。
 - (2) 水源問題は、中東和平交渉における最終合意に向けた核心的課題の一つで、同交渉の枠組み以外では、水源に関する変更はほぼないと見なされている。
 - (3) 一日当たりの水使用量は、イスラエル408リットルに対して、パレスチナ側では200リットルで、アムネスティが指摘するほどの格差はない。
 - (4) イスラエルの水使用量は過去40年で70%削減している一方、パレスチナ側は増加している。
 - (5) オスロ合意で決定した量を上回る量を定期的にPAに供給している。
 - (6) パレスチナ側は水の浄化と農業用に下水を再利用することを拒み、その代りに下水を西岸の水路に垂れ流し、公害を引き起こしている。